

東京都警察情報通信部

先輩職員の声



警察庁の地方機関として存在する 東京都警察情報通信部

私たちは、国家公務員である警察庁の職員として、警察の神経系統である情報通信システムを駆使して首都東京の治安維持に貢献しています。



「警察庁技官」「警察庁事務官」の存在とは

警察庁技官

技術のプロフェッショナルとして、警察独自の情報通信ネットワーク・情報管理システムの構築や犯罪捜査の技術支援等の業務を担い、国民の安全・安心を守る第一線警察活動に欠かせない存在です。

警察庁事務官

行政事務のプロフェッショナルとして、人事・会計・給与・厚生業務等、行政機関の基盤というべき業務を担う、組織の屋台骨を支える存在です。警察庁警察官、警察庁技官と一体となって、警察行政の中軸として活躍しています。

しかし、警察と言えば制服を着た「警察官」のイメージが強く、情報通信部門で活躍する国家公務員である「警察庁技官」「警察庁事務官」を知らない人は多いのではないのでしょうか。

そこで、若手を中心とした職員にインタビューを行い、採用前の組織の印象や自分たちの業務内容について率直に語っていただきました。

インタビュー参加者



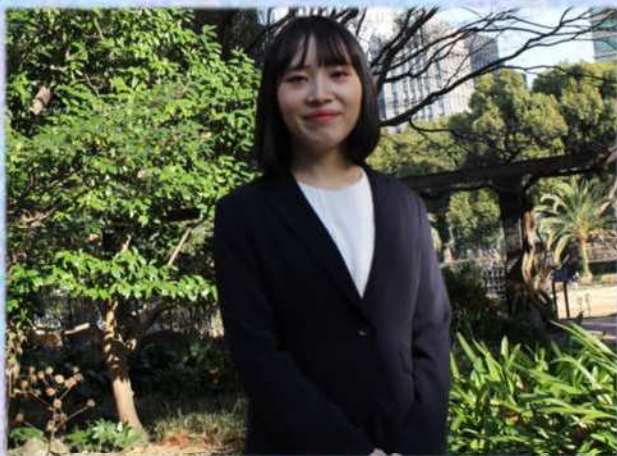
インタビュー風景





通信庶務課
警察庁事務官
(平成29年入庁)

多摩通信支部
機動通信課
警察庁技官
(令和3年入庁)



情報技術解析課
警察庁技官
(令和元年入庁)

インタビュアー

通信庶務課人事給与係長(採用事務担当)



平成20年入庁 警察庁事務官
関東管区警察局採用
H20 栃木県情報通信部
H22 千葉県情報通信部
H25 警察庁
H26 警察庁 主任
H30 千葉県情報通信部 係長
R2 関東管区警察局 係長
R4 東京都警察情報通信部 係長 (現在)

警察庁事務官(平成29年入庁)



通信庶務課 主任
国家公務員一般職（大卒程度）試験 行政区分から採用

Q. 出身都道府県は？

A. 千葉県です。大学時代は都内で一人暮らしをしていました。

Q. 現在の業務内容を教えてください。

A. 経理第二係として、契約業務を行っています。主に、警察通信活動に必要な物品の調達を担当しています。

Q. 警察庁事務官を志したきっかけは？

A. 元々警察に興味があり、事務系職員として勤務してみたいという思いがありました。都道府県警察ではなく国家公務員を選んだ理由は、より広い視点で警察活動に携わることができると感じたことです。

Q. 就職先として決め手となったのはどんな点？

A. 元々警察に興味があったことに加え、様々な勤務場所を経験できる点です。情報通信部門の職員であれば、国家公務員でありながらも各都道府県警察本部での勤務となるため、都道府県警察の雰囲気も感じることができること、また、希望や実力に応じて、機会があれば警察庁本庁等での勤務も経験できることは魅力に感じました。

Q. 実際に警察庁で働いてみて、業務にやりがいや魅力を感じることは？

A. 契約業務を行う中で、警察活動に必要な物品調達や作業について、自分が契約を担当することで、事務官として治安維持の一端を担うことができていると感じます。最近では、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に係る警備のため必要な物品調達等の契約に携わったことは、非常に良い経験になりました。



Q. 就職活動時に「警察の情報通信部門」「東京都警察情報通信部」を知っていた？

A. 国家公務員一般職試験の第一次合格発表後に行われる「官庁合同業務説明会」に参加した際に、警察庁のブースで初めて知りました。



Q. 学生時代、何をしていた？

A. 一番思い出に残っていることは部活動です。サッカー部にマネージャーとして入部し、週5日の練習に参加していました。学部は国際系で公務員試験とはあまり縁がありませんでしたが、就職活動の時期から試験勉強を始めました。

Q. 休日の過ごし方は？

A. 友人たちと過ごす時間が楽しみです。おいしい料理を食べながら、他愛のないことから真面目なことまでたくさん話ができる時間が至福です。





「迅速果断」

Q. 仕事に臨む上での自分の信念を一語で表してください。

A. 「迅速果断」です。素早く決断して実行するという意味の四字熟語です。現在担当している契約の業務は、必要な時期に必要な物の調達等を行えるよう業務を進めなければなりません。どのように契約手続を進めるかなどを迅速に判断し実行することで、警察通信活動が支障なく行われるよう努めています。

志望者へのメッセージ

警察は厳しいイメージがあるかもしれませんが、教養や研修が充実しているため、基本が身に付くとともに全国に仲間もでき、安心して業務を始めることができました。国民の安心安全に直結する警察業務に事務官として携わるということは、仕事をする上で大きなやりがいになると思います。

興味のある方はぜひ東京都警察情報通信部で働いてみませんか？

警察庁技官(令和元年入庁)



情報技術解析課 主任
国家公務員一般職（大卒程度）試験
電気・電子・情報区分（※）から採用
※現在のデジタル・電気・電子区分

Q. 出身都道府県は？

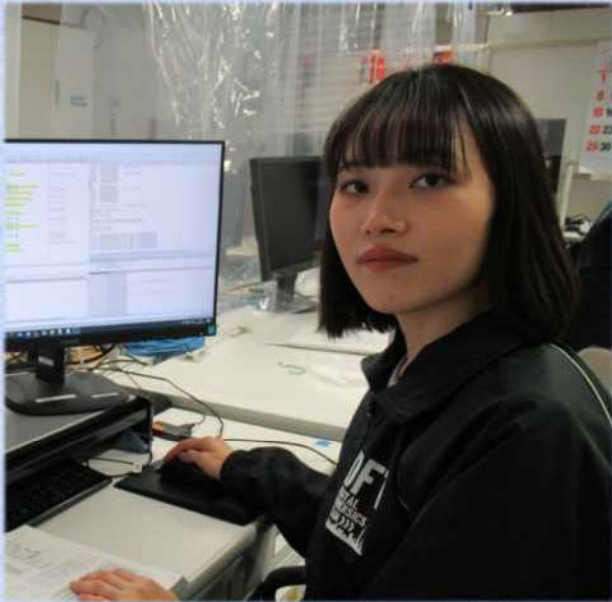
A. 富山県です。大学時代を関西で過ごし、東京都警察情報通信部での採用を機に上京しました。

Q. 現在の業務内容を教えてください。

A. 情報技術解析課主任として、犯罪を立証するための証拠を電子機器から抽出・解析し、警視庁が行う犯罪捜査を技術面から支援しています。また、サイバー攻撃の未然防止や事案発生時の被害拡大を防止するために、民間事業者を訪問し情報提供なども行っています。

Q. 警察庁技官を志したきっかけは？

A. 国民の安心安全を守る警察という職業に魅力を感じ、大学で学んだ情報系の知識を活かして働けないかとインターネットで探していたときに、警察庁技官という職種があることを知りました。



Q. 就職先として決め手となったのはどんな点？

A. 大学で情報分野を学んでいく中で、サイバーセキュリティに関する業務に就きたいと思うようになり、その中でもサイバー空間の脅威から国民を守る警察庁技官という仕事に魅力を感じました。また、政治・経済・文化の中心地である首都東京では、幅広い業務を経験することができるのではないかとの思いから、東京都警察情報通信部を選びました。

Q. 実際に警察庁で働いてみて、業務にやりがいや魅力を感じることは？

A. 複雑・巧妙化する不正プログラムの解析には高い技術力が求められるのですが、そのような解析を試行錯誤しながらやり終えたときには大きな達成感とやりがいを感じます。自分の学んできた技術力を活かし、捜査に貢献できることは魅力の一つであると思います。

Q. 就職活動時に「警察の情報通信部門」「東京都警察情報通信部」を知っていた？

A. 知っていました。採用説明会に何度か参加していく中で、警察庁技官という職種について理解を深めていきました。

Q. 学生時代、何をしていた？

A. 大学では情報系を専攻し、プログラミング等を学んでいました。また、県警で募集されていた大学生ボランティア活動に興味を持ち、少年の更生支援に関わる活動や警察主催のイベント等に参加させていただきました。

Q. 休日の過ごし方は？

A. 普段は椅子に座りっぱなしで解析を行うことが多いため、休日は体を動かそうとジムに通っています。また、休日にまとめてお弁当のお惣菜を作り置きして、冷凍庫にストックしておくことで、平日の退庁後もゆっくりと過ごすことができます。





「徹底」

Q. 仕事に臨む上での自分の信念を一語で表してください。

A. 「徹底」です。一般的に「一貫している」や「すみずみまで行き届く」という意味で使われていますが、もともとは仏典において「底」に「徹する」、つまり物事を深く理解・経験して自分の知識とすることを意味します。サイバー空間の情勢は日々変化しており、最新技術の情報を収集することも重要な仕事です。その際に、単に技術用語の意味を知るというだけでなく、その技術に触れて活用することで、生きた知識へと昇華するように心掛けています。

志望者へのメッセージ

警察庁技官には専門的な知識が求められるため、難しそうと思う方もいるかもしれませんが、警察庁では採用一年目の研修期間を通して、情報通信に関する知識をしっかりと身につけることができます。少しでも警察庁技官の仕事に興味を持っていたら、説明会や官庁訪問に足を運んでみてください。皆さんと一緒に仕事ができることを心からお待ちしています。

警察庁技官(令和3年入庁)



多摩通信支部 機動通信課 係員
国家公務員一般職（大卒程度）試験
電気・電子・情報区分（※）より採用
※現在のデジタル・電気・電子区分

Q. 出身都道府県は？

A. 茨城県です。東京都警察情報通信部への入庁を機に上京しました。

Q. 現在の業務内容を教えてください。

A. 多摩通信支部の機動通信課において、警察署等の通信施設の保全に関する業務や機動警察通信隊の業務に従事しており、警察活動に必要な情報通信機器（無線・有線・ネットワーク等）の保守・点検業務や事案発生時における通信の確保に関する業務に従事しています。

Q. 警察庁技官を志したきっかけは？

A. 私の母校に関東管区警察局の採用パンフレットが届いており、そこで警察庁技官の存在を知りました。自分の専攻を職業として活かせること、日本の治安維持に携われることに魅力を感じました。

Q. 就職先として決め手となったのはどんな点？

A. 日本の治安維持に携われること、学生時代の専攻を活かせることに加え、シティーボーイに憧れ東京で働きたいということも、東京都警察情報通信部を選んだ決め手になりました。

Q. 実際に警察庁で働いてみて、業務にやりがいや魅力を感じることは？

A. 警察庁の業務は、他省庁と比較すると事務職から専門職と業務の幅が大変広く、自分の興味関心がある、学生時代に学んだことを活かす業務を行うことができることに魅力を感じます。特に、採用された直後に東京で2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、世界的なスポーツイベントの警備に少しでも従事できたことは非常にやりがいを感じました。



Q. 就職活動時に「警察の情報通信部門」「東京都警察情報通信部」を知っていた？

A. 正直なところ、採用されて東京都警察情報通信部の職員になるまでは、警察の組織関係や東京都警察情報通信部と関東管区警察局の違いなど詳細な部分については、知りませんでした。

Q. 学生時代、何をしていた？

A. 工学分野(電子・情報)を専攻していました。サークルには所属しておらず、アルバイトと趣味の筋トレとランニングを行っていました。遊ぶ事が最優先な学生時代で、もう少し資格取得など自己研鑽に努めるべきだったと後悔しています。現在は、第1級陸上無線技術士の資格も取得し業務に役立てており、ほかにも上位の資格取得に向け日々勉強しています。

Q. 休日の過ごし方は？

A. 趣味の筋トレ、都心でのショッピングを行うことが多いです。東京には時代の最先端の物からレトロな物まで幅広くあり、楽しく過ごせています。





「百聞は一見に如かず、 百見は一触に如かず」

Q. 仕事に臨む上での自分の信念を一語で表してください。

A. 信念を表す一語は「百聞は一見に如かず、百見は一触に如かず」です。これは私が好きな漫画の登場人物の言葉で、公私問わず大切にしています。「聞くよりも、見る！見るよりも、触る(体験する)！」ということ意識しており、何事もやってみるといふ志で職務に取り組んでいます。警察官の方々と一緒に勤務する機会が多いので、業務で人に説明するときもこの言葉を意識して、図やグラフを作成したり、体験してもらって説明するように心がけています。

志望者へのメッセージ

警察庁の技術系職員は、国家公務員一般職試験の全ての理系区分及び無線従事者での採用を行っています。この案内を見ているあなたが「今学んでいること・得意なことを活かしたい、やりたいことがわからないから探したい」と感じているなら、警察庁で活躍のフィールドがみつかると思います。他省庁と比較すると最先端で専門性が高い業務に従事することが多く、やりがいを感じられる職場です。是非、警察庁の門戸を叩いてみてはいかがでしょうか。

警察の情報通信ネットワークを、繋ぐ。
国民と警察を、繋ぐ。
人と人との絆を、繋ぐ。

東京都警察情報通信部



東京都警察情報通信部では、
職員一人一人が高い士気と進取の姿勢を持って業務に臨み、
警察の神経系統を支えるという使命感を持って働いています。

首都東京を守り、国家国民を守る。

警察庁技官・警察庁事務官を目指してみませんか。

個別の業務説明会も随時受け付けています。
興味のある方は↓こちらまでお気軽にご連絡ください。

totsu.saiyou@npa.go.jp (通信庶務課採用担当)